

# 市民が描く那覇市像

那覇市再開発シンポジウム

筑波大学講師 吉川 博也

## 改善型・保全型の都市政策望む

3、那覇市民の望む都市像とは

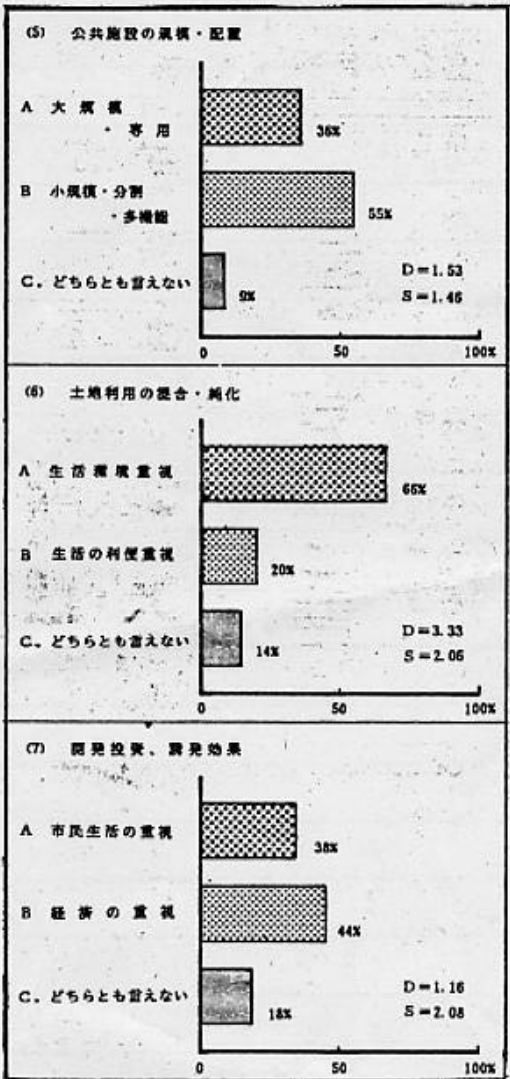
これらの設問の選択を通して、那覇市民が望ましいと考えている都市政策と具体的な都市像のイメージは、ほぼ次のようなものが想定される。

それは「那覇の特色をわざとしないような、改善型・保全型の都市政策によって、さらに那覇の個性を優先した方向を望んでいる。そして具体的な

望ましい都市イメージとしては、那覇市の魅力の源泉となっている高密度人口を保ち、それゆえコンパクトな都市形態が可能となり、いわゆる歩行者都市が実現出来る。生活面では比較的狭域の密度の高い生活圏を設定し、こ

く望んでいる」というもので

## 特色生かし個性の優先を



<下>

ある。さらに詳細に検討するためには、前述の決定度の順位、すなわち生活環境確保▽歩行者都市▽都市個性の発揮▽改善型・保全型都市政策▽高密度▽公共施設小規模・分散配置▽生活志向投資、また安定度の順位、すなわち、改

紀の都市像、いわば人間優先にみられるギャップ、すなわち他の項目はBタイプの情景型、保全型の開発を選択しているのに対して、設問(6)のみがAタイプの田園都市型が選択されるという矛盾を解決するような仕掛けを作り出したり、設問(7)のように安定度がありよくないところに

ここに示された市民の政策選択は、市行政当局にとって、は感しものとなる。というのはこれまでの既存の都市計画、例えば郊外開発型・自動車都市とは異なる未知のチャレンジをつぎつげられたことになる。これはまさに21世紀の都市像、いわば人間優先

また本文の冒頭に久場先生と私の論争、すなわち私の主張する「スリッパ都市計画論」のもつ危険性、すなわち防災、生活環境面の問題点を久場先生は指摘されたのである。しかしアンケートを見る

# 市民が描く那覇市像

<上>

—那覇市再開発シンポアンケートから—

筑波大学講師 吉川 博也



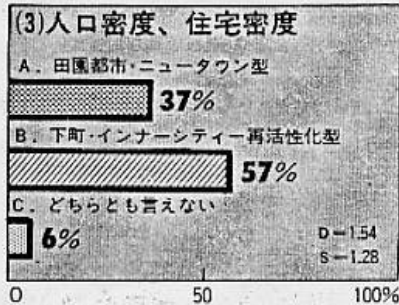
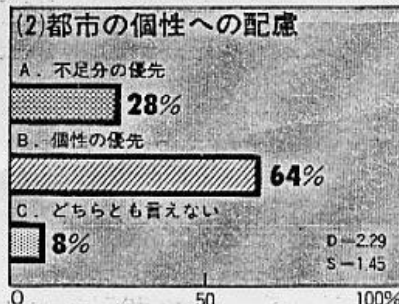
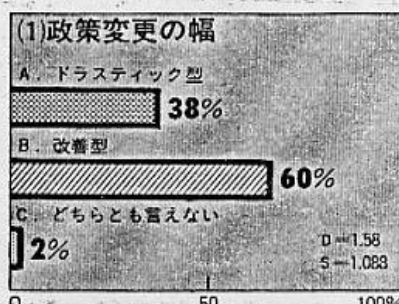
二つの大きな選択である。  
Aタイプ これはどちらかというところ欧米型の理想都市、すなわち田園都市型、自動車依存型、大規模施設配置型をイメージしたような都市開発である。  
Bタイプ これはその都市の個性を尊重した、すなわち那覇に即して言えば下町再開

に志向した選択をするかというところは大きなわれ目とならう。都市デザインとプランのいるる側面に關係をしていく。  
そこで選択されたA、Bタイプのうちで人数の多い方で小さい方を割ったものを決定度と呼ぶことにしよう。設問1を例にすると一・六(倍)

を先ほどの決定度として計算するとB+CをAで割った場合とBをA+Cで割った場合があり、その商を不安定度と呼ぶことにしよう。設問1を例にすると一・〇九となりこの値が大きい程、決定度が不安定で政策幅が可変なことを示す。ここではこれらの数値については表に示すのみで解説は後に述べる専門誌にゆずることとする。

・配置  
公共施設の配置は小規模で分散し、身近なものがよいとする市民が五五%、むしろ大型・専用施設を望む市民が三六%である。  
・純化  
職住が遠くなって、不便になっても騒音・悪臭のないような生活環境の方を選択する市民が六六%、これとは逆に生活環境が低下しても職住近接を望むものが二〇%である。  
・都市開発  
都市開発はあくまでも生活志向投資で、このためには公共投資全体が減少してもかたがないとする市民が四四%、生活といっても経済あつてであるので開発投資・公共投資額を大きくすべきとする市民が三八%である。

## 選択に2つのタイプがある



## 欧米型と下町再開発型

三月十四日午後、沖縄銀行本店ホールで那覇市と琉球新報主催で那覇再開発のためのシンポジウム「新しい都市システムの構築と視点が開かれた。当日は前もって準備した不足、あわてて補助を出すというふうなことになる、四百人を超える参加者を得た。改めて那覇の再開発に対する市民の関心の高さを認識した次第。

「那覇研究」の一環として、この機会を利用していただいて「那覇市の都市政策の選択に対するアンケート調査」を実施させていただいた。アンケート用紙も四百部しか準備していませんので、不足してご迷惑をお掛けした。それにもかかわらず回答者は百五十八人と約四割の参加者にご回答していただいたことになり、感謝している。また回答

用紙の余白に結果を出来るだけ早く公表してほしいという要望が数多く見られたので、掲載後、研究室メンバーで早速単純集計をしたので、報告させていただきます。多量な解析

等による本格的な分析は、また後日、改めてさせていただきます。こう思っています。

一、都市政策の選択  
シンポジウムの開催された翌日の十七日付の琉球新報の

記者席に沖縄開発金融公庫前副理事長の久場政彦先生と私の論争についての記事があったように、今、那覇の再開発で一番重要なポイントはその両タイプがすべて対立するわけではないが、今後の那覇の再開発においてどちら

タイプ、小規模施設型、歩行依存型、小規模施設分散型をイメージしたような都市開発である。

この両タイプがすべて対立するわけではないが、今後の那覇の再開発においてどちら

なり、もちろんこの値が大きければ、大きい方の選択度が決定的なことを意味する。さてここでもう一つ注目したいのは、Cという選択を保留している市民の割合で、設問別には二%〜一八%という差がある。そしてこのCの動向によってはA+C、あるいはB+Cというような選択結果となる可能性がある。これ

・設定① 政策変更の幅  
・設定② 都市個性への配慮  
・設定③ 人口密度、住宅密度に関して  
・設定④ 公共施設の規模・配置  
・設定⑤ 公共施設の規模・配置  
・設定⑥ 土地利用の混合・純化

・設定⑦ 生活志向投資  
・設定⑧ 都市開発投資